

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動報告書】

飛鳥中学校野外活動支援 活動報告書

数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑

1. 実施日 2023 年 9 月 27 日 (水)

2. 場所 飛鳥中学校

3. 参加者 教育学専修 4 回生 木下 結等 教育学専修 4 回生 中家 麻弥
社会科教育専修 3 回生 東 晃太郎 国語教育専修 2 回生 吉岡 優来
数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑 英語教育専修 1 回生 田中 天央衣

4. 活動の概要

2023 年 9 月 27 日に飛鳥中学校にて、野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、スタントの補助とキャンプファイヤーの補助、野外活動のためのサポートなどである。

5. 参加者の学び・感想

今回の野外活動支援では主に 2 つのことを学んだ。1 つ目はファイヤーキーパーの難しさ、2 つ目は子どもたちのファイヤーに対する想いである。

1 つ目について、私自身今までファイヤーキーパーをしたことがなく、大変苦戦した。ファイヤーキーパーはキャンプファイヤーではあまりスポットが当たらない場所である。しかし、時間や風向きを見ながら火の大きさを調整するという重要なポジションでもある。そのため、今後ファイヤーキーパースキルを上達させたいと感じた。

次に 2 つ目について、今回のキャンプファイヤーは生徒達からやりたいということで始まったと聞いた。当日まで何度も練習を重ねて自分たちの全力を出し切った生徒達の顔は暗闇でもわかるほどのいい顔であった。キャンプファイヤーに対する想いがなければこのような顔にならなかったと思う。そのため、想いをもって活動することは生徒達の達成感につながるのではないかと学んだ。新型コロナウイルスでこのような活動制限されていたからこそ、今後もっと増えていって欲しいと感じた。

(教育学専修 4 回生 木下 結等)

今回の野外活動では、キャンプファイヤーの運営のお手伝いをさせていただき、生徒達を信じて見守ることの大切さを学んだ。プログラムを盛り上げようと声を掛けていたり、時間がなく変更されたプログラムに柔軟に対応していたり、生徒達の自分自身で考え行動する姿がたくさん見えた。生徒たちの力を信じて一歩引いて見守り、生徒達が活動にかける思いや願いをくみ取って共により良いものにしていこうとすることが、補助する立場として一番意識していかなければいけないことだと思った。次の活動では、盛り上げる、学生が考えて動くということよりも、まずはもっと生徒達にどんなキャンプファイヤーにしていきたいのか、どんな動きをしてほしいかなど生徒達の声に耳を傾けることを大切にしていきたい。

(教育学専修 4 回生 中家 麻弥)

飛鳥中学校では生徒、教員、保護者、地域の人々が協力し合って中学校を支えていることが分かった。片付けの時に教員、大学生に加えて数名の保護者の方が手伝ってくださったり、地域の人々がキャンプファイヤーを見に来られたりしていた。学校行事を多くの人が支えることの重要性を理解した。こういった人々のつながりは、まさに ESD の視点の連携性と育てたい ESD の資質・能力の協働的問題解決力に当てはまると考える。新たな気づきや交流が多くあった。

(社会科教育専修 3 回生 東 晃太郎)

今回の野外活動支援では、主体的に活動することの大切さを学んだ。今回のキャンプファイヤーは、飛鳥中学校の生徒会の生徒が主体となって準備・運営をしており、その中で私は助言をしたり、ファイヤーキーパーなどの支援をした。その支援をする中で、生徒会の生徒達が積極的に質問をしたり、スタンプも沢山練習したことが分かったりしたことが印象的であった。当日も全体を通し、良い活動となり、生徒達も達成感を大いに感じていたとうかがえた。やはり、主体的に「やろう」という意識の下活動することで、達成感を得ることができ、成長につながると考える。

(国語教育専修 2 回生 吉岡 優来)

今回の野外活動支援では、中学生から学ばせてもらったことが多くあった。特に、声だしについてだ。始まる前はマイクを使いたいと言っている生徒もいたが、始まってみるとマイクを使わなくても声がしっかりと全体に届いていた。おそらく、人前で声を出すのが苦手な生徒であると思われるが、それでも声が出せるように努力をしていたのだと思った。大勢の人前で声を届けるようにしようとする姿勢や覚悟、努力など見習わなければならないことがあると感じた。そのため、この活動に参加して、大変勉強になった。

(数学教育専修 1 回生 奥村 壮之佑)

今回の野活動支援では、キャンプファイヤーの支援を行った。中学生が主体となって企画・運営を行っていた。そばで見守り、声掛けを中心に私たちは活動した。生徒達は自分たちがしたいと思っていたことの実現に向け、殻を破って積極的に活動していた。大成功で終え、全員が輝いていた。何か達成したい目標があり、それを成し遂げられた時、人は喜びを感じて成長するということを学んだ。そのサポートをできて私も良い経験となった。

(英語教育専修 1 回生 田中 天央衣)



ファイヤー後の炎